

民主島根

2023年
6.18
第1427号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

衆院小選挙区島根1区予定候補 村穂 江利子さんを発表

大軍拡ストップ、原発再稼働反対訴え



会見する(右から)上代、むらほ、尾村、大国の各氏(松江市)



現地調査を行う、むらほ氏(右から5人目)と地方議員ら(雲南市)

日本共産党島根県委員会は8日、松江市内で記者会見し、次期衆院選の島根1区に、新人で党県常任委員の村穂江利子氏(55)を党公認候補として擁立すると発表しました。

村穂氏は、岸田政権がすすめる大軍拡の中止、島根原発2号機の再稼働反対を訴え、子育て支援や物価高騰対策として、18歳までの医療費や学校給食費の無償化、男女の賃金格差の是正などを掲げました。

また、日本が抱える多くの課題を解決していくためには古い政治のあり方を変える必要があると語り、「命と暮らしを守る党の政策を幅広く訴えていきたい」と決意を述べました。会見には上代善雄県委員長、尾村利成、大國陽介

の両県議が同席しました。

日本共産党の、むらほえりこ衆院小選挙区島根1区予定候補、尾村利成、大國陽介の両県議は9日、県環境政策課の嘉藤健二課長、藤原誠課長補佐の案内で、島根県安来市、雲南両市の山地に建設が予定されている2つの風力発電施設の現地調査を行いました。向田聡・安来市議、上代和美・雲南市議、松江市議団らが同行しました。

大規模風力発電計画地を調査

むらほ 衆院島根1区予定候補

安来市には日向山(ひなやま)風力発電事業(11基)のほか、同市と雲南市の境界に建設予定の大出日山(おおしびざん)風力発電事業(13基)が計画されています。いずれもジャパン・リニューアブル・エナジー(東京都)が2026年の着工をめざしています。



村穂氏の略歴

1968年生まれ。島根大学法文学部文学科卒。高校教諭やボランティア団体事務局長などを経て、2022年3月から現職。松江市在住。

安来市には日向山(ひなやま)風力発電事業(11基)のほか、同市と雲南市の境界に建設予定の大出日山(おおしびざん)風力発電事業(13基)が計画されています。いずれもジャパン・リニューアブル・エナジー(東京都)が2026年の着工をめざしています。

地域住民からは「風車の騒音や低周波が心配」「原

風景が素晴らしくて移住を決めた。豊かな自然、景観を守ってほしい」などの声が広がっています。

配慮書に係る丸山達也県知事意見では、①住民の懸念事項や意見に誠意をもつて対応すること②環境への負荷を最大限回避すること。できない場合は

事業の廃止を含め、計画の抜本的見直しを行うことなどを求めています。

尾村・大国の両県議は「目先の利益追求での乱開発は森林破壊、土砂崩れ、住環境の悪化や健康被害の危険を広げる。住民合意のない事業は認められない」と話しました。

誰でも受診できるように 島根民医連が県に要請

島根県民主医療機関連合会(眞木高之会長)は5月31日、すべての県民が安心して医療機関へ受診できるような県として必要施策を講じることを要請しました。(写真)

松江生協病院医師(院長)の眞木会長ら6氏が県庁を訪問。眞木氏は「コロナ禍を通じて仕事を失う

などにより、病気になることも医療費を支払うことができない人が増えている」と訴え、経済的困窮者が病気になる時、医療が無料で受けられるよう公的制度の拡充を要望。▽無料低額診療事業を採用する医療機関の拡大▽保険料や医療費の窓口負担が支払えない人への減免制度の確立などを求めました。医療政策課の内部宏課長は「現場の声をしっかり受け止め、今後の県の取り組みにかしていききたい」と答えました。日本共産党の尾村利成、大國陽介の両県議、松江市議団らが同席しました。



核兵器ゼロへ
「コロシマの心」いまこそ国会へ

日本共産党はこのほど、次期衆院選の比例中国ブロック(定数10)に、大平喜信元衆院議員(1期)を擁立すると発表しました。



大平喜信元衆院議員(1期)を擁立すると発表しました。

鼓動

「今の職場の状況ではとても仕事と子育ての両立はできない」と、知り合いの女性が十一年間勤めた公務員を辞職した。彼女は大学院で専門の資格を取り、その専門職に意欲を燃やしていただけに、さぞ無念だったろう▼彼女は同じ公務員の男性と結婚し、三人の小さい子どもを育てている。相談事業の職場はコロナ禍の中、多忙を極めた。「残業も続き、遠距離通勤の夫も保育園迎えには間に合わず、祖父母に頼ることもたびたびで、子どもにストレスが」と振り返る▼スキルを生かしてがんばろうとすると、ついオーバーワークになり、子育てに行き詰まった。「何が異次元の少子化対策よ。女性活躍社会だと旗振りをしている公務員の現場が、こんな状況では…」と嘆く▼ある新聞に「育児をしながら働く女性になれない自分に悩んでいる」との相談が。これに対して、回答者の俳優の平岳大氏は「私の住んでいる米国では、この場合、間違いなく答えは『悩む前に、自分の立場や権利を主張すべき』となる」と回答▼そして『育児』と『働く』という言葉が、あたかも相反するかのようなニュアンスには、少子化まっしぐら、労働力も減少している日本で、いまだに家父長制度が意識の中に定着し続けているように思えて違和感を感じます」と▼つまり、わが国ではいまだに「母親は家において子育てを」という古い考え方に縛られているという。冒頭の女性は「職場の男性上司や政治家の一部にもそんな人が結構いる。そのため、子育て真ん中の女性がつぎつぎと退職している。こんな世の中何とかしらよ」と怒っている。(吉)